

第2回門真市魅力ある教育づくり審議会

(第1回つながりのある教育の創造部会) 議事録

開催日時 平成29年1月17日(火) 午後2時40分

開催場所 市役所本館2階 大会議室

出席者 佐久間敦史、小林美鈴、横貫照国、国吉孝、齋藤耕司

事務局 満永学校教育部長、山口学校教育部次長、三村学校教育課長、高山学校教育課参事、黒木教育総務課課長補佐、松岡教育総務課副参事、古崎学校教育課副参事

傍聴者 2名

議事

佐久間部会長

「つながりのある教育の創造部会」を開催させていただきます。

まずは、改めて自己紹介を簡単をお願いしてから、議論を始めたいと思います。まず私は大阪教育大学の佐久間と申します。専門は学校教育でして、基本的には生活科とか総合学習とかいうのを研究しているのですが、元々小学校の教員をやっていた時に、今日もお話にあがっていたように割としんどい子どもを中心として気になる子どもたちをどうしていくかみたいなことが、現場にいる時の中心的な研究実践課題だと思うんですが、そう意味では人権教育も興味を持って研究していました。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、この名簿の順番に小林委員をお願いします。

小林委員

こんにちは、小林と申します。子どもが3人おりまして、もう既に3人とも成人しております。

横貫委員

こんにちは、横貫と申します。美容室を経営しています。

さきほど話題に上がったのですが、職業講話とか職業体験とかで店に来てもらったりしています。よろしく願いいたします。

齋藤委員

こんにちは、古川橋小学校の齋藤です。教頭として4年目なのですが、教諭として門真市に採用されてから20年以上経ちました。よろしく願いいたします。

国吉委員

こんにちは、大和田小学校校長の国吉です。28年度は門真市小中学校校長会の会長をしております。よろしく願いいたします。

佐久間部会長

それでは、まず初めに事務局から提案をお願いいたします。

案件1. 副部会長の選出

事務局（三村学校教育課長）

まず初めに、前回の審議会で決めることができませんでした副部会長を選出していただきたいと思いますが、選出についていかがいたしましょうか。

佐久間部会長

事務局の方で何か案があれば提示して頂けたらと思いますが、いかがでしょうか。

事務局（三村学校教育課長）

事務局案といたしまして、学校長の代表でいらっしゃいます国吉委員がよいのではと考えておりますがいかがでしょうか。

佐久間部会長

ただいま、事務局から副部会長に国吉委員との提案がありましたが、いかがでしょうか。

全委員

異議なし。

佐久間部会長

それでは副部会長は国吉委員に就任していただきます。どうぞよろしく願います。

国吉副部会長

よろしく願います。

案件 2. 「開発的生徒指導の推進」について

佐久間部会長

次に、案件 2 「開発的生徒指導の推進」についてです。
まず事務局からこの部会に沿ったご説明をお願いしたいと思います。

事務局（三村学校教育課長）

では事務局より説明いたします。

お手元の「門真市教育振興基本計画」の 16 ページをご覧ください。こちらには門真市の小中学校での問題行動の現状と課題が書いてあります。その課題を解決する方法のひとつとして、「門真市開発的生徒指導」を基本とした生徒指導を進めていこうとしております。

続きまして、資料 2 「門真市魅力ある教育づくり審議会 今後の流れ（案）」をご覧ください。今回の部会では、すべての児童・生徒が自己実現を達成するための「自立をめざした生徒指導の在り方」を議論していただきたいと考えています。

そのための討議の柱としまして、まず「①自立とは何か。自己実現とは何か。」を議論していただき、次に「②自立できる人間を育てるために重要なことは何か。」を議論していただいたうえで、最後に具体的な手法として「③自立をめざした生徒指導の在り方や具体的な手立ては何か。」を議論していただきたいと考えております。

この内容を基として、自由に議論していただきたいと考えています。

また議論していただくお時間ですが、大変申し訳ありませんが、16 時頃を目処にさせていただき、最後残り 10 分で意見の集約をお願いしたいと考えておりますので、ご協力願います。以上です。

佐久間部会長

ありがとうございました。1時間程度の議論になると思いますので、私も話せば一人10分ぐらいの配当となりますので、是非有益な話にさせていただければなと思っております。まず今、事務局の方から説明がありましたように、大きなテーマになっているという感じがするんですね。自立とは何かということで、今日1時間程度議論していくことですので、この後、簡単に一回りそれぞれのお立場あるいはご経験とか、どうお考えかとかというあたりをまずお話をいただいて、少しずつ議論をしていこうかと思っております。

この部会の先々のことは、つながりのある教育の創造ということですので、おそらくは自立ということで幼児教育から小・中で、高校とあり、義務教育ということからすると中学校卒業までとなりますので、その先を見越しての自立ですので、子育てのご経験やあるいはお仕事のご経験もめてどの発達段階でお話しいただいてもいいかなとは思っているんですけども、つながりのあることですから、いろいろな角度からお話をいただければなと思っております。では国吉委員からご意見をお願いできますか。よろしく申し上げます。

国吉副部会長

それでは失礼します。まず自立ですが、これは今言われて、なかなか一言で言えるものとは違うと思うのですが、子どもたちを見ていまして、やはり社会性というものが1つのキーワード、ポイントになってくるんじゃないかと思っております。今、佐久間部会長からありましたけども、子どもたちは年齢によってその発達段階がどんどん変わってきます。それで年齢に応じた社会性、適用ですね、そういったところがあるのではないかと思います。

それと話を飛ばしますが、私、中学校の元教員として、現在小学校に来ております。そうしますと小学校1年生から中学校3年生までの9年間の間で、この自立ということを考えますと、教科は私、理科なのですが、理科だけがそれにかかわるものなのかというと違うんですね。いろいろな教科の先生がいて、小学校もそうですけれども、いろいろな時間、授業時間だけじゃなくて、休み時間、あるいは朝の時間、あるいは放課後の時間、そういったいろいろな時間を通じて子どもたちと関わるんですね。あらゆる活動を通じて、そういったものが自立につなげる1つの手立て支援ではないかと思っております。

少し話が飛びましたが一度皆様のご意見を聞かせていただいてその辺のところを詰めていきたいというふうに思います。以上です。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。今一通りお伺いしてから議論に入りたいと思

いますので、齋藤委員次お願いします。

齋藤委員

自立というのはなかなか難しいテーマかなと思うのですが、小学校の1年生から6年生までの発達段階は大きく異なってくるかと思います。やはり小学校を卒業した先、中学校を見据えた中で、この学年ではこういった力をつけていこう、この学年ではこういった力をつけていこうといくことを系統立てて取り組んでいく。ゆくゆくは生きる力がはぐくむように、教員はそういった思いを持って、日々のいろんな教育活動に取り組んでいるかなと思います。また今後、小中連携の一貫教育の話もありますけれど、やはり中学校ともお話をさせていただく中で、中学校を卒業した先のことも小学校の方では見据えて、日々取り組んでいかなければならないなと考えております。

佐久間部会長

ありがとうございます。それでは横貫委員お願いします。

横貫委員

はい。私は美容師なので、子どもたちの自立ということ考えると少しよく分からないところが実際あるのですが、美容師として例えるのならば、美容師は美容室の学校に入りシャンプー等を勉強し、はさみを持ってお客さんに自分がメインとして、技術を与えるというところで一応自立かなと思っています。自分にも子どもがいるのですが、自立しなさいとはまだ言いにくいところがたくさんあるのです。

自立って今初めて言われて、今の話も全く分かりません。全く自立という言葉がよく分からないとは思いますが。子どもにも説明できないですし、美容師としては、はさみを持って一端になるという責任をとれる立場というのが自立というふうに思ったりはしています。それ以上何とも言えないところが、申し訳ありませんがあります。以上でございます。

佐久間部会長

はい、ありがとうございます。続いて小林委員お願いします。

小林委員

私の子育ての経験でいいですか。やはり同じでどの辺が自立かと言われれば全く分からないんですけども、私の場合は子どもが小さい時から、子どもがやりたいことは見守ってきました。まず勉強しなさいというのは一度もいった

ことないんです。今になって子どもたちが言うのですが、母親が勉強しろしろと言わなかったことがすごく良かったと。それにつながったのは、何でもさせていました。口を挟まずに見守って助言をしてきました。

それが自立かどうかは分かりませんが、1つのことを自分で決めさせていました。あなたがそうしようと思うのだったらやっごらんという形で、3人ともそれで育てました。だから受験も仕事も自分で決めて、事後報告にはなるんですが、お母さんこういうことをしたい、こういうことをやってみようと思うけどいいかなと言って、それまでもさんざん悩んでいるんです。自分で悩んで悩んで友達に相談したり、先生に相談したりクラブの先輩に相談したりして悩んだ結果、こうしようということを決めて、こうしようと思うけどどう思うということ聞いてきていました。それに関してもあなたがそうしたいんだっただお母さんは応援するから、やってみたらというふうに3人とも育ててきました。その結果、勉強もそうだし先の人生就職もそうなんですけど、自分できっちり決めて、自分で頑張っています。

佐久間部会長

ありがとうございます。ここからは相互の意見に質問したりとかというふうなこともやっていきたいなと思うんですけれども、基本的には私も含めて学校関係の国吉先生からは社会性のこととか、それから教科だけではなくて学校教育活動のあらゆる時間で自立に向かう活動を行って来るということ。それから齋藤先生からはやっぱり中学卒業後のまさに自立を見据えて小学校も含めて子どもたちを教育していくんだということ。それから横貫さんからは非常に興味深いお話を伺えてやっぱりお客さんに接していて自立するんだとか、それから責任がとれることが自立なんだという、何と言うか明確なゴールを示していたでいて大変興味深いご意見だなと思って拝聴いたしました。

それから小林さんからは自立するに当たっての方法というか見守るというか、余りこちらから勉強しろとか細かいことを言わずに自分で決めていくことを応援するからやってみればと見守ってきたことが自立につながったんだということを書いていただいて、非常に深いお話だなと思って聞かせていただきました。

一応今中央教育審議会というところで12月21日に答申も出しまして、間もなく新しい学習指導要領ができて、そして新しい教育が始まろうとしているのが日本の現状です。その中にたくさん自立という言葉が出てくるのですが、おっしゃるようにやはり社会的な自立、職業的な自立がよく出てくる言葉で、出口のそこは一応、そういうことだということなんです。

ではですねもう少し次は重要なことは何かとか、具体的な手立てとかに話が移っていくので、今お話いただいたことをベースにしながら、よく分からない

ことも含めて相互に少し興味がある話とかもう少し聞いてみたいなという話を質問なり議論なりをしていただけたらなと思うんですけども。

学校がよく分からないという話がありますでしょ。何かあればどんなことでもという感じでいきたいと思いますが。自立と言われて学校に期待することとか。これまでのご経験とか。この機会に聞いてみたいこととか。おっしゃっていただければと思うんですが。

小林委員

私は学校の先生には学校の先生のやり方があると思いますので、信頼してお任せしてきました。ただ何かあった時には担任の先生にお話しして、どうなんですかと聞いたことはあります。

佐久間部会長

お子さんが学校に通われてきて、学校にお任せしてきたとおっしゃって下さいましたが、学校に任せていて自立してきたな大人になってきたなということはやっぱり見えてくるものですか。

小林委員

ありました。先生が良かったんだと思うんですが、いろいろなことを報告してもらったりとか、教えてもらったりとか、いろいろ方向性を伝えてもらったりとかしていたので、ありがたかったと思います。

佐久間部会長

横貫委員は自立自体よく分からないとおっしゃっていましたが、自分のお子さんのお話ですか。

横貫委員

いや、全体的な話です。

佐久間部会長

子ども全般について自立はまだまだ難しいということですか。

横貫委員

そうですね・・・。

佐久間部会長

職業の話をもう少しお教えいただけませんか。例えばいくつぐらいの子どもの話ですか。専門学校を出られてからご覧になったようですが、専門学校に知っている学生も見られたんですかね。

横貫委員

そうですね、そこも見たりもしますね。

佐久間部会長

そうすると生徒が自立する様みたいなものも、もう少し詳しく話を聞かせていただければと思います。

横貫委員

先ほどの、教育についてもそうですが、やれと言われたことはやらないとか、やれって言われたことほどやらないですよ。

佐久間部会長

それは何歳ぐらいの子どもですか。

横貫委員

学校終わってすぐぐらいの子たちなので、20歳ぐらいです。20歳ぐらいでもやれと言われたことはなかなかやらないですね。我々は特殊な職なんで、どちらかというと師弟関係がありますので、縦社会ではあります。私も厳しいです。厳しいので、強引にするんですが、基本的なことは全部やった上で、自分がはさみを持った時に、そこで責任とかすべてを感じるんで、そこで顔が変わるんですね。顔が変わって、これで少し一端になっていくんだらうなというふうには思っていますね。

佐久間部会長

やはりはさみを持つというのは違うんですね。

横貫委員

切ってしまったら終わりですので。

学校の生徒がよく来るんですけど、中学生や小学生が、お客さんとしてもきますね。学校どうなるとよく聞くんですが、すごく面白いんです。美容師というのはそれも特殊ですごく素直に話せるところで先生の悪口ばかりです。嫌な意味ではなくてみんなあると思うんです。悪口ばかり言うんですね。

自立とは少し違うことかもしれませんが、学校ではツブロックがダメだと言うんです。風紀違反のヘアスタイルを求めてくるんです。それをなんでダメなのか聞いてくるので「あかんもんはあかんねん」と私は言っていて、駄目だと決められたことは駄目だと。個性を出したいのであれば、みんなが流行っているヘアスタイルをすると個性がでないのではないかと、また違うことをした方が面白いと思うという話はしているんです。

第3者の美容師立場なので、子どもはすごく素直に話してくれるというのが面白いところです。

佐久間部会長

ありがとうございます。その学校ではルールが決まっていて、そうじゃないことをするのがおしゃれだという話をしたということですが、それは中学生ぐらいですか。

横貫委員

中学生ぐらいですね。

佐久間部会長

その先どんな反応ですか。

横貫委員

その先はふてこくなりますね。

いわゆるコミュニケーション能力が低いというのは確かに思いますね。投げかけたことに対して、質問に対して、また質問で返してくるとか。結局何も進んでなくて、まず最初に戻ろうとか少しずつ話をしていくんですけども。正直自分自身の客層でいうと中学生のお客さんで極端なんですね。すごい慕う子どもは慕うんですが、一回で来なくなる子どもは来ないんです。それは私がいないことを言うからだとは思いますが、でもすごい腹からしゃべってるんで、いろいろな情報をもらえます。

佐久間部会長

では市民の方2人から興味深い話がありましたが、学校の先生方からもお話を伺って聞いてみてとかいうのは何かありましたら、いかがでしょうか。

国吉副部会長

そうですね学校というところはやっぱり校則がありまして、それに基づいて

指導するという形なのです。ですから髪型服装等も一応、決められていまして、指導に則ってやっているという状況です。

例えば中学でいきますと、茶髪等はかなり厳しい状況になります。というのは中学3年になりますと進路指導がありまして、そこから高校入試等があるわけですね。その時にやはり茶髪っていうのは、どうしてもしんどいですね。そういったところがあり中学生についてはかなり厳しくしています。かといって小学校はどうかといいますと、そこまでは言わないですね。ご家庭の方でそうされているのであれば、やむを得ないかなというところですよ。

少し話は変わりますが、小学校から中学校等に連携してやっていくという話になりますとその辺はやっぱり詰めていかなければならないと思います。自立とはそれですが。

自立に話を戻しますと、これは当たり前のことなのですね。一人で立つという意味ではないと思うのです。やはり周りのいろいろな支えがあって、それをもってその子どもがいろいろなことに対応できる、対処できる、そういった人間的な成長といいますか、そういったものが自立だと思しますので、つけ加えておきます。

佐久間部会長

やれと言ってもやらないとかというのは、実感としてどう思いますか。

国吉副部会長

これは子育てともよく似ているかと思うのです。うちもそうでした。

親がこうなってほしいと思うのと、教師としてこうなってほしい、こうやってほしいというのと同じことだと思います。ただ反抗期がありまして、そういった中ではなかなか1度やそこらでは聞かないですね。それはやっぱり、工夫をして、こちらのことを聞いてもらう、そういった工夫が教育の現場でも子育ての現場でも必要なことではないかと思っております。

齋藤委員

小林委員のおっしゃった話の中で、子どもにすべて任せたという話がありましたが、そうあるべきだなというのを改めて感じたところです。学校でも、私個人的にもなってしまふのですけど、つい口を出してしまう。ついこうしたら、ああしたらということをしてしまいます。もっと大きく構えて子どもたちに任せたいなという願望はあるんですけど、特にわが子になるともっとその気持ちはさらに強く働いてしまつて、逐一言ってしまう。ただ学校の教員となると、1歩引いて見られる部分もあって、子どもに任せて子どもも満足するよ

うに持っていけるように支援したいなという気持ちはあります。しかしなかなかその域に達するのは難しいなと感じています。

佐久間部会長

それではですね自立とかのイメージを今、共有を先に見てみたんですけども、それでもやはりなかなか広い範囲でなかなか難しいようなので、時間の様子を見ながら次に進みたいなと思ってるんですが、相当乱暴な話だと思ってるんですけども、では2番目です。自立できる人間を育てるために重要なことは何かというまた難しい議題になってるんですけども、これも今一言ずつお話していただいたことを、もう一度繰り返しになるのか、あるいはさらに少し深めてというお話になるのか、あるいはそれぞれの立場や経験でということになるのかなというふうに思うんですけども。これは話が結構大きいですよ。

国吉副部会長

先ほどお話した内容なのでですけども、我々教育現場から話をしていきますと、自立できる子どもたちを育てるために、何をしているかってことなんですね。

教育ですから子どもたちにいろいろなことをさせてみるいろいろな仕掛けがあります。いろいろな言葉かけ、投げかけがあります。そういったことも含めて勉強のこともそうですし、遊びのこともそうですし、クラブ活動もそうですけど、そういったものがいろいろな作用をして、子どもたちの成長につながっていくということだと思うのですよ。だからいろいろな教育活動を通じて、あらゆる活動を通じて子どもたちの自立につなげて、そういう教育をしているということですね。

佐久間部会長

いろいろな活動というのが、先ほどの国吉委員が冒頭でもおっしゃっていただきましたが、学校教育の全般的にその他細かいところも含めて、全部自立につながっていくのではないかなということなんですけれども、それは例えば小学校、中学校では、具体的にというか主というか、例えばどんなことがありますか。休み時間も自立というイメージが遠いかなと思ったり、あるいは国語の勉強が自立のイメージは湧きますかねと思いますし、学校教育の中味について、もう少し詳しくお話しいただければなと思います。

国吉副部会長

確かに教科となりますと、その教科の学習の定着をめざす点も1つであると思うのです。ただ子どもたちはその時その時により様子が違います。そういっ

たことを察知して、それを休み時間とか他の時間を通じて、子どもたちに話を
していくというか、それがやっぱり相談なのかもしれませんけども、それに対
してこういう手もあるんじゃないと逆にこちらから回答を示すこともできます
し、そういったところの話をまずしているつもりです。

それとこれも飛躍するかもしれませんが、中学校にいきますと特に勉強が嫌
いな子どもというのはどうなのかというと、1つでも救われるものがあれば学
校が楽しいと言ってくれるんです。

例えば私、バレーボール部の顧問をしていましたけども、もう勉強は全然ダ
メでしんどいしんどいと言っていた子がいたのですが、でもね、クラブの時間
になったら目の色が変わるんです。そういうところもやはりその子どもを成長
させる1つの材料になるのではないかと思います。

佐久間部会長

ありがとうございます。自立するにとって、もちろん教科の勉強は大事で
はありますが、例えばクラブ活動であるとかさまざまな課題を持つ子どもにと
って特に重要だということをおっしゃっていただいたと思います。

今の話でいくと市民の立場でというと学校に求めるものが勉強だけではない
ということもあるのではないかと思います、いかがですか。

小林委員

クラブ活動も必要だと思います。

国吉委員がおっしゃったみたいに勉強以外となるとやはりクラブ活動です。
クラブが楽しいとやっぱり勉強もするんです。なぜするのかと言ったら、クラ
ブの先輩であったり後輩であったり、その中でクラブを通して話がどんどん
どんどん入ってくるので、それに対して何が必要かとなった時に、やっぱり勉強
も大事よねってなったんですね。だからうちの子はクラブが好きでした。

先輩や担任の先生やその顧問の先生たちと色々な情報交換があって、そこ
から自分の先が見えてきて、それに向かっては何か必要かとなった時にやっぱ
り勉強はしとかなないととなつて、クラブを通して勉強をしないとというのがう
ちの子どもにはありました。

佐久間部会長

今、お話を聞いていると勉強だけではないよという感じで聞こえてくるん
ですが、もう少し何か思うところがあれば、教えていただければと思います。

横貫委員

僕自身自立をするために何ができるかですけれど、失敗をよくすればいいと思います。齋藤委員が先ほどおっしゃっていたみたいに、どうしても失敗しないように言うてしまうっていうところはあるかもしれませんが、全部線を作るのは、面白くないと思います。私の子どもは今高校一年生ですが、去年受験のときに行きたい学校があったんですけど、私自身は難しいかなと思っていましたが、落ちてしまいました。

その時に、黙って涙をこぼして泣いて、電車に乗って帰っていましたが、もう一度見に行こうと言うんです。それでもう一回見に行ったんですが、落ちていました。それで、途中まで帰ってもう1回行ってくれというんですね。ここだなと思いました。ここでこの子がどう変わるかというのがすごく大事な点だと思うんですよ。

自身は自分の子どもとかお店のスタッフとか失敗するだけ失敗したらいいと思うんです。あとはこっちが責任を取るなのでその分、そこで多分大きく成長すると思うんですね。そこで始めて自立っていうふうなことにつながるんじゃないかなというふうに思います。

佐久間部会長

ありがとうございます。奥の深いお話で、なかなか学校教育で失敗しろとは言にくいところがあります。しかし、学校ではなかなか難しいとは思いますが、奥が深くて正しい話とも思います。

もう少し何かお話ありますか。次にまだ話を進めていく必要があるんですけども。もう少し話があればしていただければなと思うんですけども。

私からは少しお勉強くさくて申し訳ないんですけども、専門が学校教育でするので、幼児教育の自立するのは国が定義してしまっていて、一応紹介をしておきますね。中央教育審議会の幼児教育部会審議まとめです。その中の自立心という項目です。新しい教育では幼稚園で10項目についてこんなふうな子どもを育ててから小学校に子どもを送りましょうというのがあるんですね。今の話にも近い所があるんですね。

「身近な環境に主体的に関わり、いろいろな活動や遊びを生み出す中で、自分の力で行うために思いを巡らせて、自分でしなければならないことを自覚して行い、あきらめずにやり遂げる」という感じなんですね。

やっぱり誰かに言われてやるというよりも、主体的に自分の力で自分でやらなければならないと思ったことを自分で頑張るといことが自立心だと幼児教育では言われているんですね。

それから小学校でいうと生活科が1年生2年生であるんですが、教科目標が自立への基礎を養うというのが教科目標なんですが、その自立がやっぱり学習

上の自立です。自分で勉強していけるということです。それから生活上の自立というのがあります。それからもう一つ精神的な自立というのがある、小学校では自立にはその3つがあります。

その先は中学校の専門ではないので、なかなか飛んで社会的な自立とか、職業的な自立とかになるのかなと思います。

最後のところが20分ぐらいしか時間ありませんので、深めていきたいなと思うんですが、自立をめざした生徒指導という言葉が入ってるので、ちょっとイメージしにくいとは思いますが、先ほどのパワーポイントの、たぶん気になる子どもへの関わり方みたいな生徒指導だというふうに、門真のいわゆる気になる子どもたちへの関わり方ということが中心になるかなと思うんですが、自立をめざした生徒指導のあり方や、具体的な手立ては何かということなので、一定この部会で少し意見をまとめて、後ほど全体で報告をしていきたいなと思うので、この後また、これを一通り伺いながら、まとめていこうかなと思います。

具体的な手立てとかの方が分かりやすいかな。生徒指導のあり方という学校のことでよ。

国吉副部長

そうですね。それの方が分かりやすいですね。

佐久間部長

生徒指導の在り方となると、学校になりますね。

国吉副部長

教師からなら答えやすいと思います。市民の方から生徒指導と言われても、答えにくいと思います。言葉はそういう感じがするのですが。

佐久間部長

では、学校側から少しずつ口火を切っていただいて、しかしそれとてやっぱり幼小中で違うかなと思ったりもするんですけども。少しずつ何かこんなことが大切だとうことを出し合っていきましょうか。

国吉委員、少しずつ細かいところにだんだん話をさせていただいているんですけども、教科指導、日常生活、学校生活、それからクラブ活動とか、それ以外も含めてもう一度というか、もう少しというか、具体的な手立てみたいなことで、まとめの話に向けてお話しいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

国吉副部長

あんまりまとめてなかったのですが、少し言葉の解説をしますと、生徒指導の在り方の生徒指導という言葉なのですけども、従来のですね、生徒指導という言い方は中学校の先生あるいは高等学校の先生が非常によく使う言葉なのですよ。要するに生徒ということで、それに対しまして小学校の場合には、児童という言い方をするんです。児童指導という言い方は余り使わずに、では生徒指導に当たる言葉は何かといいますのは、従来は生活指導という言い方をしていたのです。PTAの小学校では生活指導員とかいう言い方があります。

今回、先ほど門真市でまとめてこのあたりのところを小中もひっくるめて生徒指導という形で、言葉をまとめています。ですから小学校だけに限ったものではなくて、中学校だけに限ったものでもなくて、もう少し広げるならば、幼稚園、保育園からはあるいは高等学校からそこから先っていうのもあるとは思いますが、しかしそういったものをすべて含めて多分生徒指導という言葉を使っているかと思います。

外から無理を強いても子どもは言うことを聞かないのです。ではどうするか。子どもの内面に訴える。要するに言葉がけも行いますし、時間をかけて、裏切られても裏切られても指導を粘り強くしていく中で子どもは変わっていく。そういった中から変えていく、そういったことを重視しようとしているところなのですね。

先ほどの話にもありましたけれども、クラブ活動は厳しい部分もありますけれども、その中にはいろいろな要素があります。スポーツをするためには、ルールがあります。ルールを守っていかないとスポーツは成立しないですね。もしそこでルールを破ってしまえば反則として、相手に得点なり何なりかが与えられます。それ以外に友達との関わり、単独でするスポーツもありますけど、私に関わったのはチームプレーです。バレーボールですから、チームでしていかないといけないスポーツでした。お互いが団結しないと相手チームに勝てないです。作戦立ててそのとおりしないと勝てないです。

そこまで教師をしていた時は考えていませんでしたが、子どもたちの中で内面的に精神的に育っていったというか、育成されていったというか、そういったものがやはり精神的に強い部分を生んで変わっていったのかなと思います。

変わっていったというのは、先ほど言いましたように生徒指導面でしんどい子どもについて、振り返ってみると、そういうところを強く感じます。

佐久間部長

ありがとうございました。

ここまでの議論を踏まえて、何か思われることあれば、いかがですか。

齋藤委員

生徒指導も学習指導も、今と昔ではもう随分と変わってきているところがあります。生徒指導では、頭ごなしで指導するというスタイルでしたし、授業においても教え込み型で、45分の多くの時間を先生がしゃべっている授業がスタンダードだった頃があったと思います。実際その辺は大きく様変わりしていき、生徒指導においても子どもの気持ちを尊重するということをすごく大事にしていますし、すべての授業でそうはいかないところもあるのですが、課題が与えられて、まず自力で解決をして、その後自力で解決したことをペアやグループで話をして、それを学級全体で共有して、一つのものを作り上げていくというような授業スタイルに変わっていったのかなと思います。

その中で横貫委員がおっしゃっていたように、失敗をしたり小林委員がおっしゃった自己決定をしたり、そういうところがやはりすごく重要視されているように学校現場も今は変わってきているのかなと思います。

それがひいては自立につながっていくんじゃないかなというふうに感じています。

佐久間部会長

齋藤委員は小学校の先生ですね。国吉委員は中学校でクラブもあるし重要だということですが、小学校で授業以外で自立にとって大切なことはあるんでしょうか。集団づくりとかになるんでしょうか。

齋藤委員

集団づくりとか行事の取組等もそうですね。6年生で臨海学校に行きます。臨海学校に向けて先生がすべて決めるのではなくて、もちろん決まっている部分もあるのですが、その中で例えばキャンプファイアーは自分たちで一から決めて、こういう流れでしようというふうに子どもたちの自主性に任せているところもあります。

佐久間部会長

そうですね。忘れがちなところですが、大切ですよ。ありがとうございます。

今の話についてでも、全然違う角度からでも市民の立場から、ここまでの議論を受けて、思うことをいただきたいと思います。一応お題は自立の在り方とか自立をめざした生徒指導や手立てという訳ですけども、教育の在り方なの

で、教育が中心ですけれども、学校教育だけではなく、家庭教育や生涯学習もありますので、いろいろな角度からお願いします。

小林委員

やっぱり先生が関わってきた中で、親もそうだし、地域の方もそうなんですけども、頭ごなしに物事を見るんじゃないなくて、叱るんじゃないなくて、やっぱりその子どもの目線で、ものを言うというのが一番効果的かなと思います。

実際に体験というか経験の話なんですけど、公園の清掃を自治会で早朝やっていた時に中学生位の男の子がバイクに乗って公園で遊んでるんですが、ものを食べて散らかしてるんです。そこへ行って、ごめんね掃除してるからと言ったら、俺らが先に来たから向こうに行ってくれと言われたんですけど、そこで、掃除しないといけないから向こうに行ってくれと言うより、ごめんね、こんな汚いところでもの食べたって、もう少し待って掃除して綺麗になってから食事したらどうって言ったら、意外にそうだなと思ったらしく、時給何ぼでやってんのと聞いてきて、500円と答えたら、しゃあないな、じゃあ俺らも手伝おかっていうことで手伝ってくれたってことがありました。

少し下がってこうこうこうなのよっていう形にもっていったら、意外に素直に聞いてくれることがあるっていうことを経験しました。やっぱり見かけは茶髪でバイクにも乗っているのが怖いんですが、見かけではなくて、子どもなので子どもの目線をお願いすると以外に素直に聞いてくれると思います。それが指導になると思いますし、その子たちのためになるかなと思います。

佐久間部会長

ありがとうございます。横貫委員はいかがですか。

横貫委員

本当に先生方のご苦勞がよく伝わりました。

国吉副部会長

すいません一つよろしいでしょうか。

保育園、幼稚園との関わりという中で、中学校は職業体験、職場体験をやっているのです。その中で幼稚園あるいは保育園といった子どもの話を一つ加えておきたいのですが、非常にやんちゃ子どもがいて、本人がね、幼稚園を希望すると言いつつ、幼稚園で子どもが怖がるんじゃないかと思ったのですが、ところがですね、実際は行ってみたら全然違いました。男の子はその子だけでしたが、あとみんな女の子です。1番人気者になりました。小さい子ども

が腕や首にぶら下がっているという状態でした。そういったことも一面だけ見ていたところがあったと思うのですが、子どもと関わることでその生徒のいい面を見せてもらいました。こういったことも、その生徒の成長に繋がったと感じております。以上です。ありがとうございます。

佐久間部会長

ありがとうございます。

時間ももう少しという感じのところなんですが、言い足りないところとかもう少しこれ話しておこうというのがあれば、いかがですか。

自立ということでいろいろな方面からいろいろな意見がでましたが、どうまとめようかというところではあるんですが。

言い忘れていたような自立の手だてとか側面とかありませんか。あれば言っていたら、議論をしようかなと思います。

国吉副部会長

教師としても、親としてもそうなのですが、止めてしまうという傾向があります。小林委員が言われたようにやっぱりもう少し一歩下がったところを見て、子どもたちの自主性というか自由というかそういったところに任せる度量があってもいいのかなという気がします。また体験や経験の機会を増やすっていうことは、学校現場でもそうですし、家庭でもそうですし、ある地域でも環境整備というか、子どもたちにこんなことができるということを与えて、子どもたちの選択を尊重して、任せてもいいかなと思います。

佐久間部会長

先ほど齋藤委員から行事の話がありましたが、中央教育審議会の資料では、他にも部活動についてももちろん出てるんですけども、文化芸術体験やインターンシップの就業体験、職場体験とかありまして、職場体験は来ていますか。受け入れる側としてはどんなイメージですか。

横貫委員

うちの職場体験はちょっと変わってまして、3日間あり、職場体験に3名来るんですが、3日目にうちのスタッフの頭を実体験で、カット、カラー、シャンプーをさせます。やった方が面白いと思って。これはかれこれ4、5回はやってるんですけど、とんでもない頭が出来たり、少しずつカットする子どももいて、その都度面白いです。ただほとんどが勇気がないですね。やっていいって言って、やっとなんとか切ることになります。でも目は変わっています。

真剣になったり、真剣にふざけてしています。真剣にふざけている顔がすごく良い顔しています。

僕自身もよくモデルになるんですが、素人さんのカットは意外性があるって面白いんです。本当にいい勉強になります。ただ、テーマを設けてもらいます。3人で来たら3人でテーマを決めてもらいます。かわいいスタイルを切りますとか、かっこいいスタイルを切りますとかなんでもいいんですが、テーマに基づいてカラーはこうします、カットはこうしますというのは上げてきてと。何もなしで切ってできましたっていうのは、それは仕事にならないからテーマだけ設けて、最後に先生が来て写真撮ったりしてくれるんですけど、いい顔をしています。たまにその3日間で来るのを分かっている保護者の方がお客さんとしてきて、できないのに、シャンプーさせて背中が濡れて帰っていきます。体験という事で。

佐久間部会長

ありがとうございます。

今後も続けた方がいい体験学習ですね。

横貫委員

今後も続けていきたいと思います。

佐久間部会長

この他にも保育介護体験が出てきたり、ボランティア活動というのがあったり、もちろん社会教育団体の活動があったり、学校外の活動もたくさんあるかなと思います。小林さんは何かありませんか。学校からの職場体験とかについて。

小林委員

子どもは職場体験をしました。

佐久間部会長

どんな感じでした。

小林委員

やっぱり、そっちへ行きたいと言いました。実際いきました。でも途中で方向性が違うので、自分で変えました。でもきっかけになりました。

職業体験はプラスになりました。

佐久間部会長

ありがとうございました。

学校側からもう少し、忘れていないことはありませんか。インターンシップ、ボランティア、職場体験ですが、だいたいこれぐらいですか。自立につながるものは。もちろん5教科もありますが。

では、もう時間ですのでまとめたらいいですか。

事務局（三村学校教育課長）

そうですね。部会の意見としてまとめていただければと思います。

佐久間部会長

ざくばらんに意見を言っていたいただいて、面白かったんですが、見えてきたのは学校教育といえば、当然その教科の学習で、例えば国語の時間なら言葉を話せるようになるとか人の話を聞けるようになるということは当然必要なことっていうのは各教科にあってからこそ学校なわけですけども、それ以外のところでも自立に関わっては非常に重要なことがたくさんあるというようなことを、内容に関して言えば、例えばクラブ活動というのは例えば勉強で活躍していく子どもでもという意見があったり、小林委員からはクラブ活動が楽しければ人間関係もあり勉強もするというようなことを、どちらが先かもありますが、クラブ活動が重要だというお話があったり、横貫委員の話が象徴的で職場体験みたいなこととか、小林さんも子どもさんが自分でその職業をめざされたという話があったりとかということで例えば職場体験、それから小学校で行事があることも、非常に重要な要素だというようなお話もありました。

学校教育、教科学習そのものから得る自立に向かうような学力のことや、それからクラブとかスポーツや文化とさまざまな体験や活動と名の付くものから得るさまざまな自己実現に向かうプロセスみたいなことがあります。それは学校教育もそうだし、小林委員のお話によくあったように頭ごなしではなくて、口を出しすぎるのではなくてというのは方法に関わることだと思うんですけども、そういう内容方法両面で子ども自己実現を図っていくということが重要だというような意見がたくさん出ていたのかなと思います。

ですので、この意見の中にも出てましたけれども、例えば齋藤先生がおっしゃったように授業の中でもやり方を変えているんだというお話もありまして、今までなら教師がしゃべって授業をしていたのが、例えば自力解決をするようなそんなような授業の仕方になっているんだということありましたので、様々な分野で自立ということで、打つ手立てはあるんだということを確認できたなど

思いますので、その辺のことを施策として、うまくつなげていただけたらということで、今日のところはこれぐらいで、よろしいでしょうか。簡単なまとめになりますけれども、終わっておこうかなと思うんですが。

では、今のようなことを全体会で報告をしていこうかなと思っています。

これで議題を終わろうかなと思いますが、事務局から何かあればお願いします。

事務局（三村学校教育課長）

ありがとうございました。みなさんに議論していただきました意見につきまして、その概要をこのあとの全体会で佐久間部会長よりご報告いただき、審議会委員全員で共有させていただきたいと思います。

なお、全体会開始まで若干時間がありますので、休憩をはさみますので、またお声掛けさせていただきます。10分、15分後にお席までお戻りください。よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。